



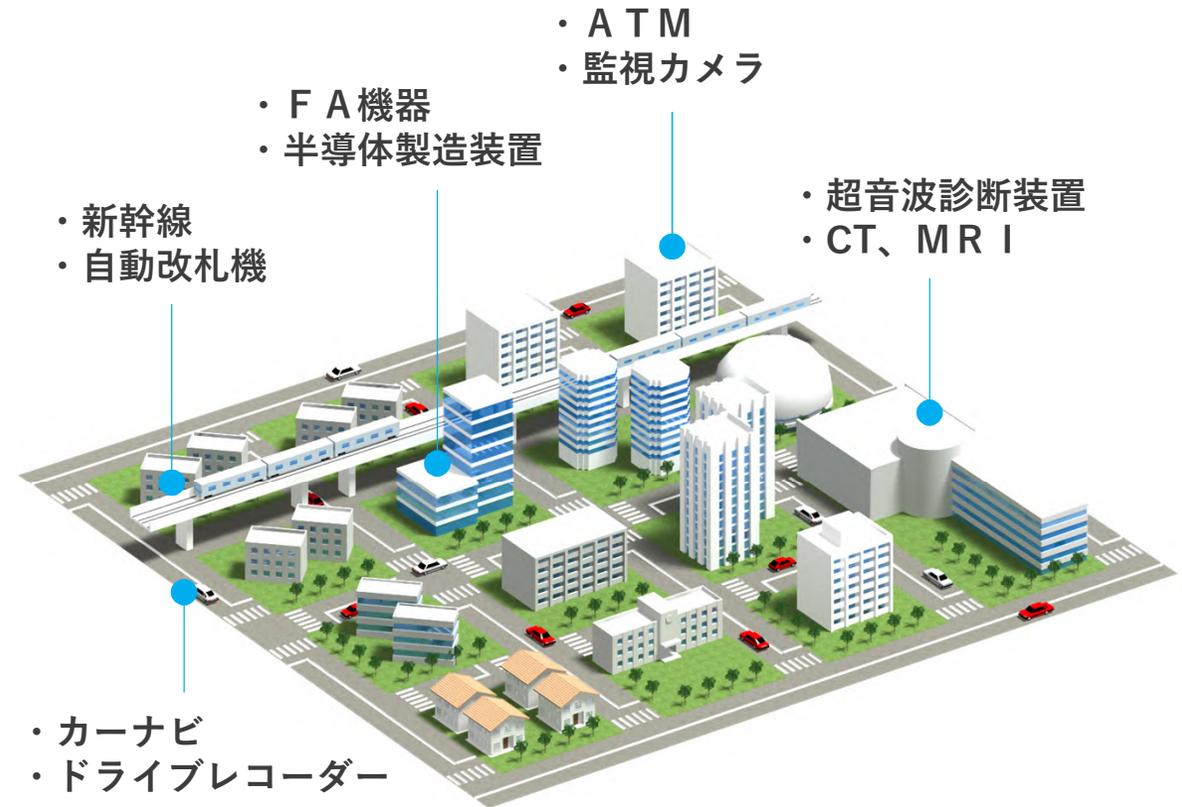
個人投資家向け 会社説明会

ケル株式会社 2026年2月

証券コード
6 9 1 9

コネクタとは？

コネクタとは、電氣的に接続をして、信号や電力を転送するための電子部品
使用用途、使用環境によりさまざまな形状、サイズ、規格のものがある
スマートフォン、家電、自動車、電車など、電気が流れるあらゆる機器にコネクタは搭載、
私たちの社会や暮らしを支えている、なくてはならない重要な部品

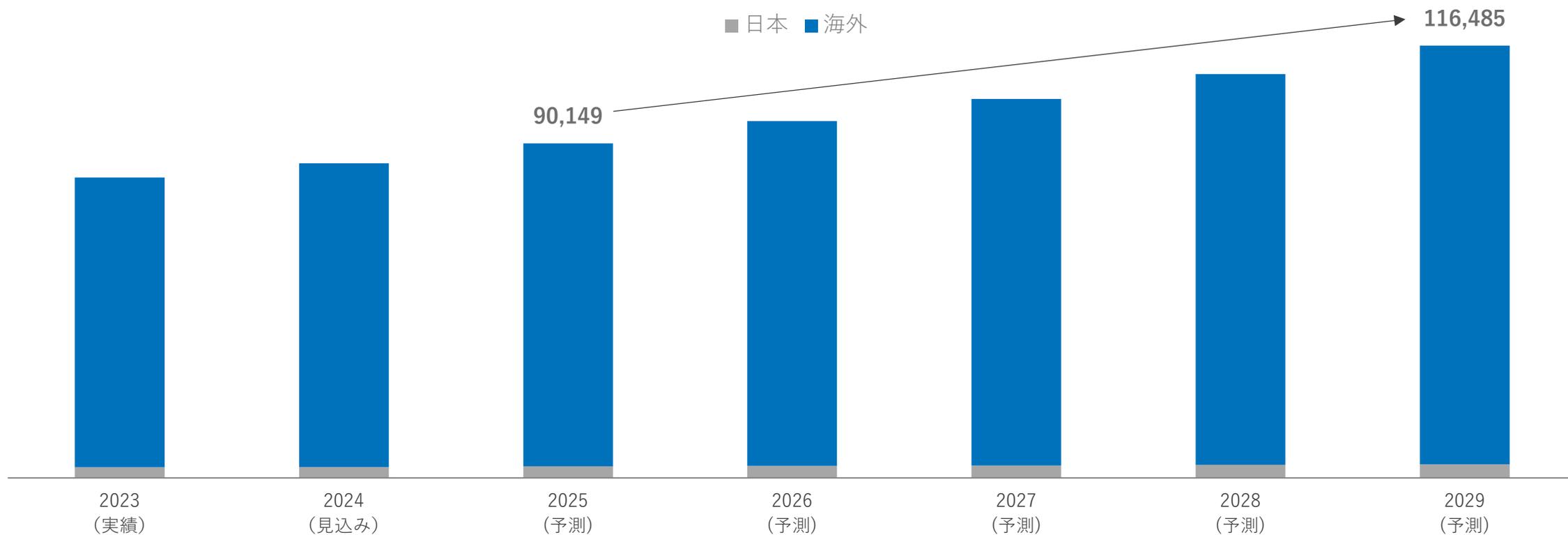


※コネクタ製品参考例のため、当社取り扱いのない製品が含まれております。

コネクタ市場

- コネクタ市場はグローバルでは2029年まで年平均6.2%成長
- 日本の構成比は約3%、市場規模が大きい海外を強化

コネクタ世界需要推移予測（単位：億円）





KEL

1. 会社概要

会社概要



設立 1962年7月23日

市場/証券コード 東証スタンダード/6919

売上高 118億71百万円 2025年3月末時点

営業利益 5億96百万円 2025年3月末時点

従業員数 315名（連結） 2025年3月末時点

本社 東京都多摩市永山

国内営業拠点 多摩センター・水戸・名古屋・大阪

国内生産拠点 山梨事業所・南アルプス事業所・長野事業所

海外子会社 台湾・上海・香港・珠海・シンガポール・ドイツ・アメリカ

経営ビジョン コネクタメーカーとして、世界に貢献できる企業になる。



創意をもって差別化できる製品づくりに取り組む

1962

ケル設立

- ✓菊水電子工業株式会社の
コネクト部門から独立
- ✓アーケードゲームへの採用
ブーム到来をきっかけにして
記録的な受注



1980~

小型化・薄型化

- ✓従来の半分のサイズで
製品化
- ✓信頼性・性能の高さが評価
され、パソコンを始めとする
民生品・工業用など拡大



1990~

差別化・差異化

- ✓差別化・差異化した
特徴ある製品開発
- ✓エレクトロニクス市場での
小型化の追求
- ✓ノートパソコンなどの
小型機器の需要拡大にともなう
採用製品の拡大



2000~

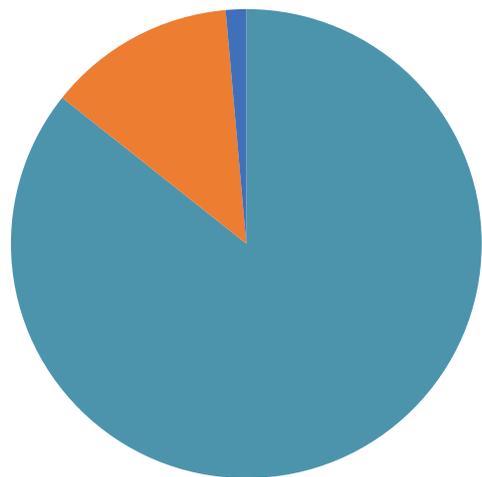
新たな市場開拓

- ✓携帯電話、車載市場など
新市場への新規参入
- ✓主力・注力市場の構築



事業内容

事業ポートフォリオ



製品別売上構成

■ コネクタ・ハーネス

85.7%

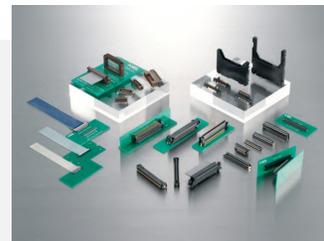
■ ラック ■ その他 (ソケット等)

12.9%

1.4%



コネクタ



小型化・高密度化・高速伝送対応等を強みとして、機器内部の基板の接続に使用する基板対基板コネクタを中心に開発

ハーネス



極細同軸ケーブルを筆頭にコネクタにケーブルをアセンブリした製品を展開。シールド加工、テープ束線等の特注対応可能

ラック



CPCI,VME等の標準バスラックを中心に、様々なオプションユニットやアクセサリを組み合わせたカスタムラックを開発

その他 (ソケット等)



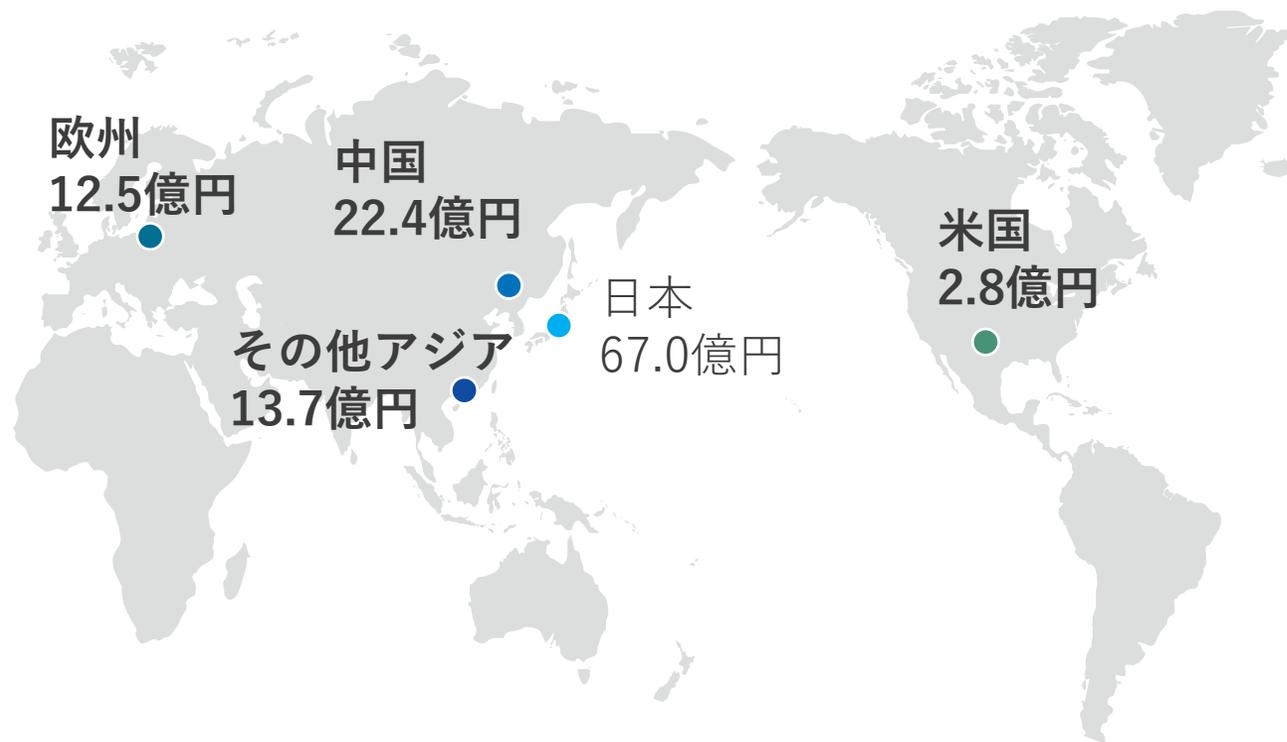
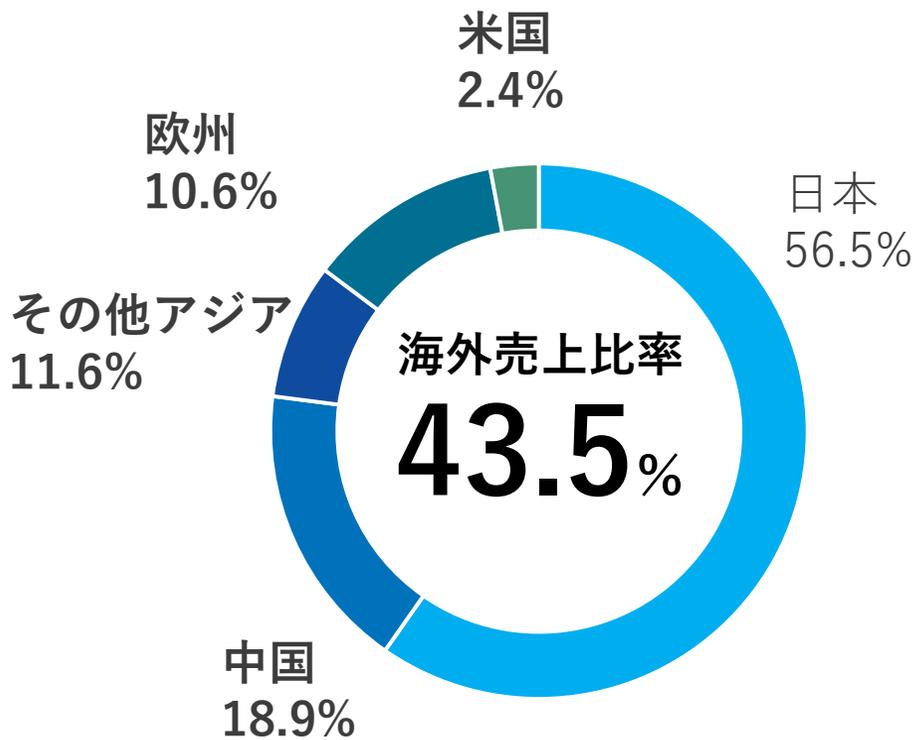
各種ICソケット、スイッチやショートプラグ等

市場ポートフォリオ

収益性の高い工業機器を中心に産業機器へ進出し、車載・通信機器など積極的に展開

注力 	工業機器	売上高 33億10百万円	売上構成比 27.9%	■ 産業機器、制御装置、半導体製造装置
注力 	車載機器	売上高 31億37百万円	売上構成比 26.4%	■ カーナビ、ETC車載機、ドライブレコーダー
注力 	医療機器	売上高 16億56百万円	売上構成比 14.0%	■ 超音波診断装置、CT・MRI、内視鏡
注力 	画像機器	売上高 13億53百万円	売上構成比 11.4%	■ デジタルビデオカメラ、監視カメラ、一眼レフカメラ
注力 	通信機器他	売上高 13億50百万円	売上構成比 11.4%	■ 通信機器、基地局、ネットワーク機器
	遊技機器	売上高 10億63百万円	売上構成比 9.0%	■ パチンコ、スロット

日本を基盤に、アジアや欧州、米国など幅広く展開





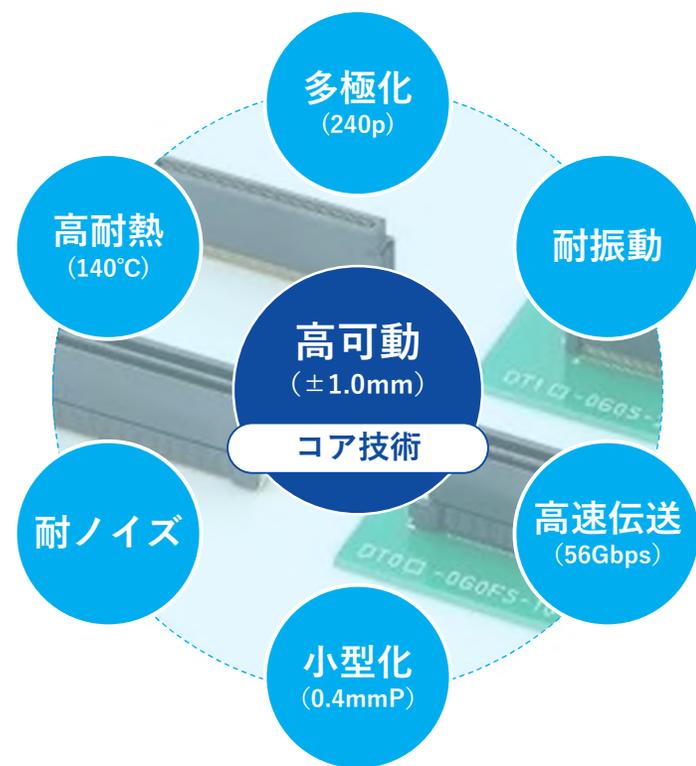
KEL

2. 特長・強み

当社の競争優位性 | 技術力

- 2つのコア技術により、多彩な業界かつ多様な顧客ニーズに応えることが可能
- フローティング構造に関する高い技術は多くの付加価値を創出
- 基板対基板、基板対ケーブル製品においては、業界トップクラスの高速度伝送対応が可能

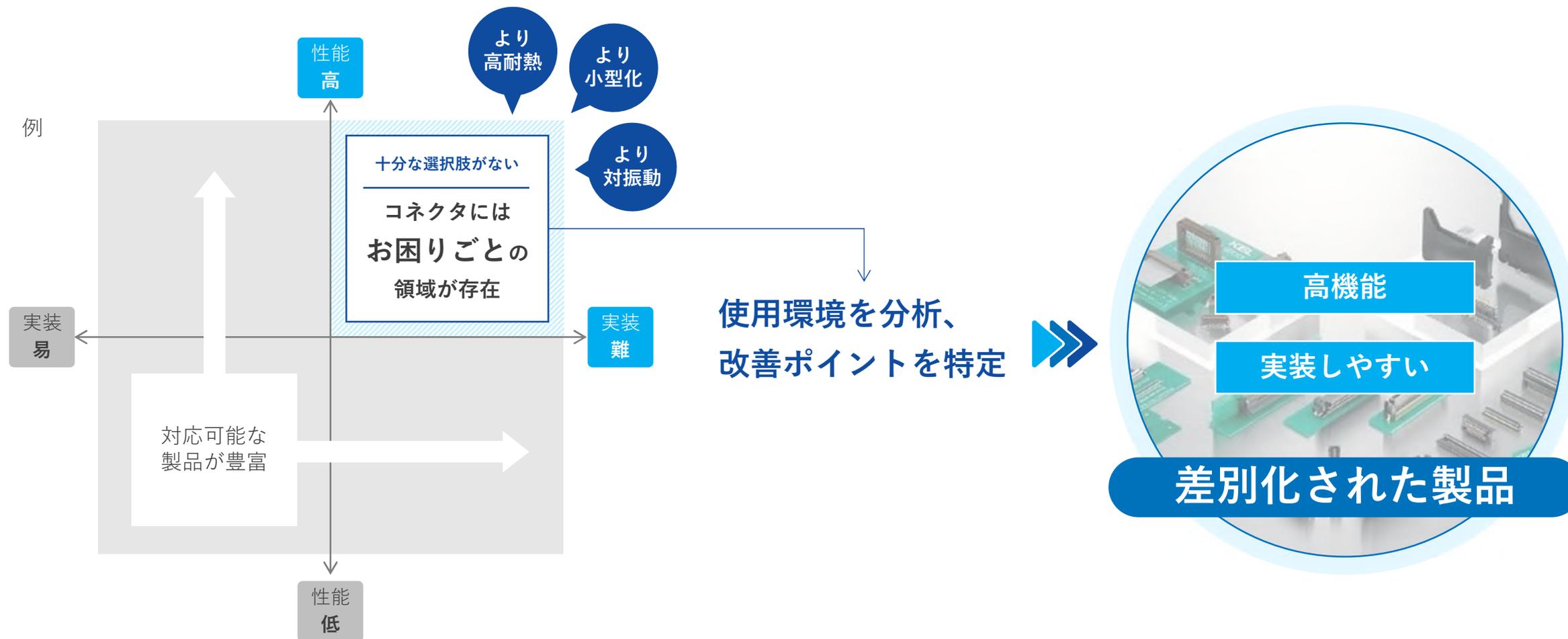
フローティングコネクタ



高速伝送用コネクタ

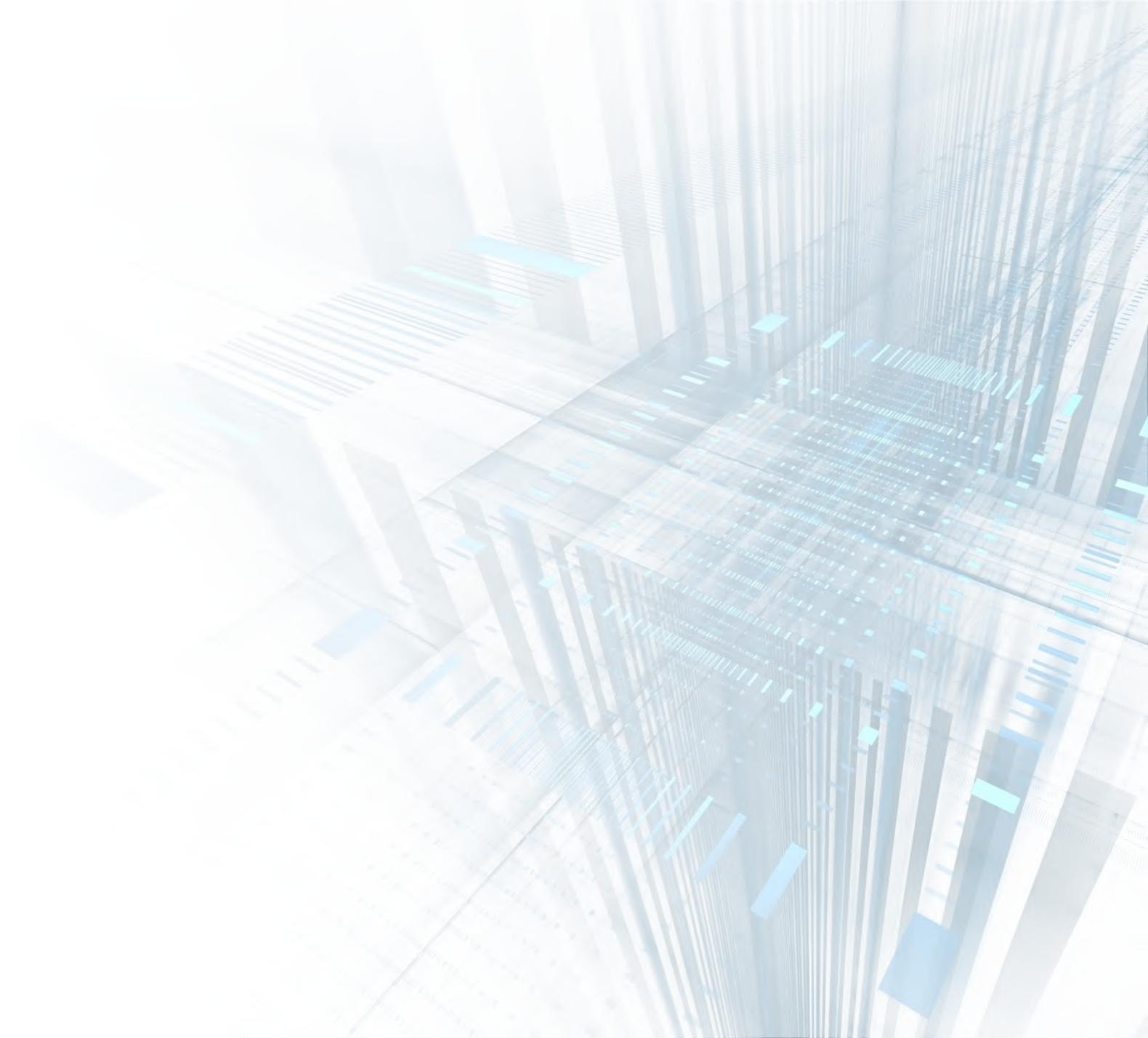


- コネクタには、品揃えが豊富な領域と、十分な選択肢がなく、お客様のお困りごととなる領域が存在
- お客様に寄り添い、お客様の課題を解決することで、差別化された製品を開発、製品のラインナップを拡充





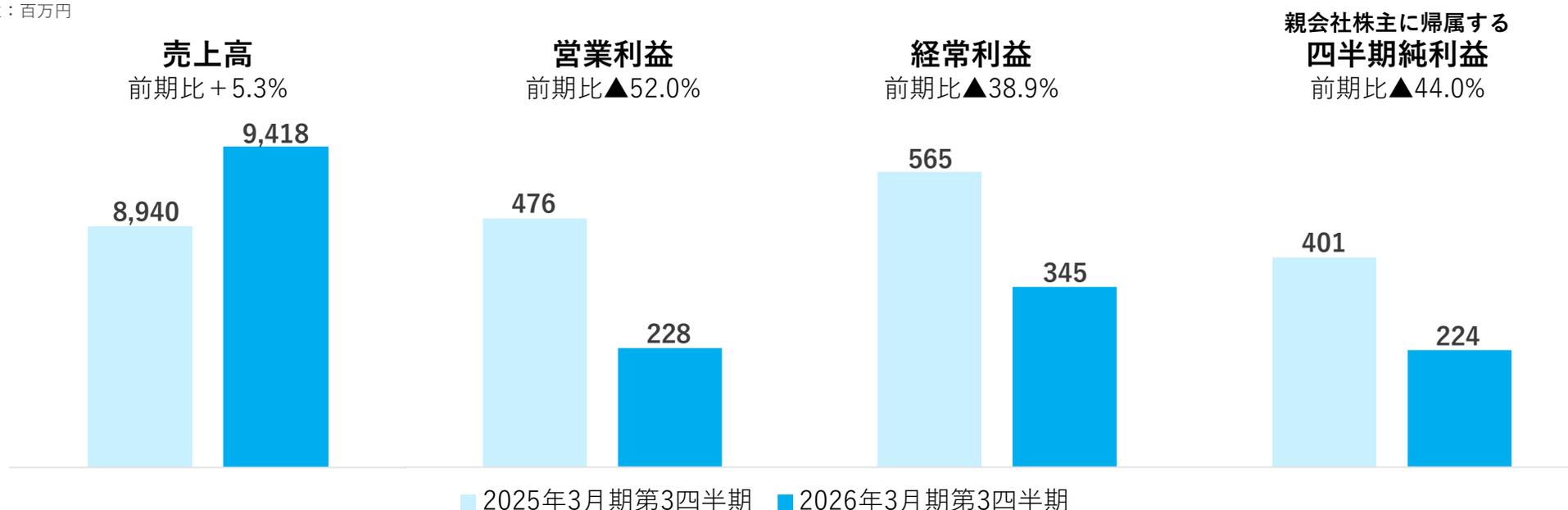
3. 業績



2026年3月期第3四半期 決算概要（2026年2月6日開示）



単位：百万円



原材料価格高騰による売上原価上昇、中国工場の量産開始の遅れにより、通期予想を修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
今回発表予想	125億円	3.2億円	4.5億円	3.1億円
前回発表予想	120億円	6.0億円	6.3億円	4.3億円



第1次長期経営計画

4. **KEL VISION 2030**

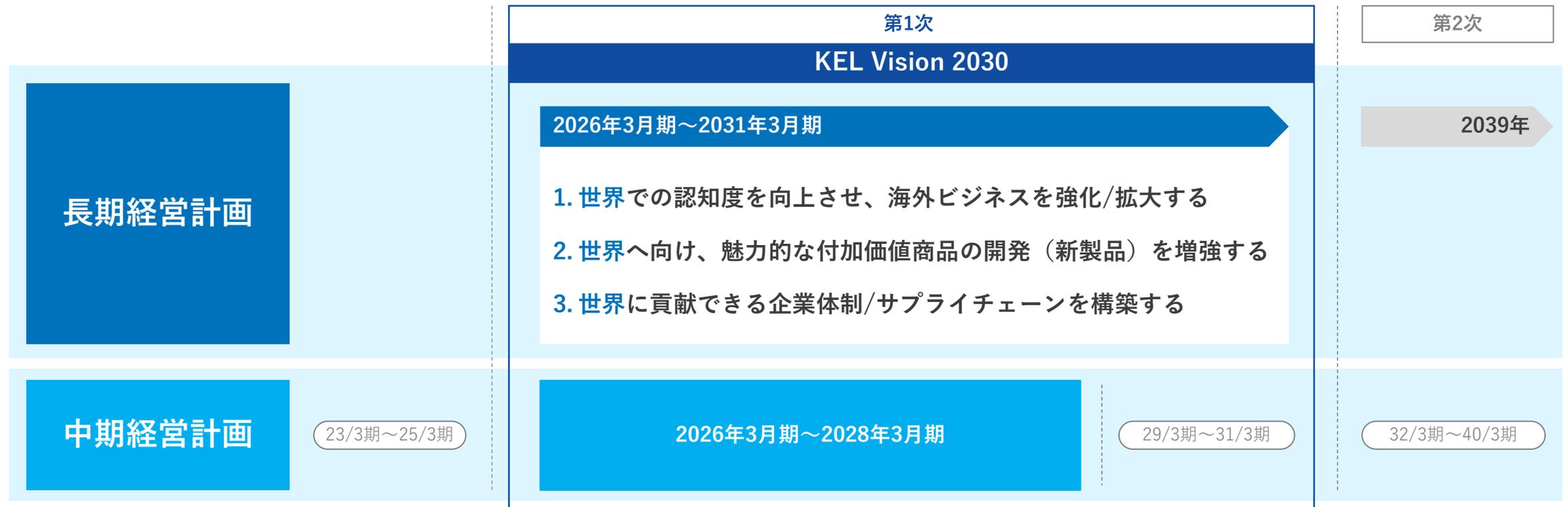
第1次長期経営計画「KEL Vision 2030」の位置づけ（2025年5月開示）



- 世界市場でのプレゼンス強化を見据え、6年にわたる長期経営計画を策定
- 2031年3月期の数値目標は売上高200億円、営業利益率15%以上

経営ビジョン

コネクタメーカーとして、世界に貢献できる企業になる



- 「KEL Vision 2030」の第一フェーズとして中期経営計画を策定
- グローバル体制、新製品の開発、市場の開拓を強化し、事業の拡大を進める

中期経営計画

基本方針

1. 海外売上拡大に向け、グローバルで体制（開発力/供給力/販売力）を強化する
2. 新製品開発、注力市場開拓を強化し事業を拡大する

事業戦略

- コネクタ事業の事業拡大
- ハーネス事業の事業革新
- 機器事業の付加価値ビジネスへの転換

数値目標

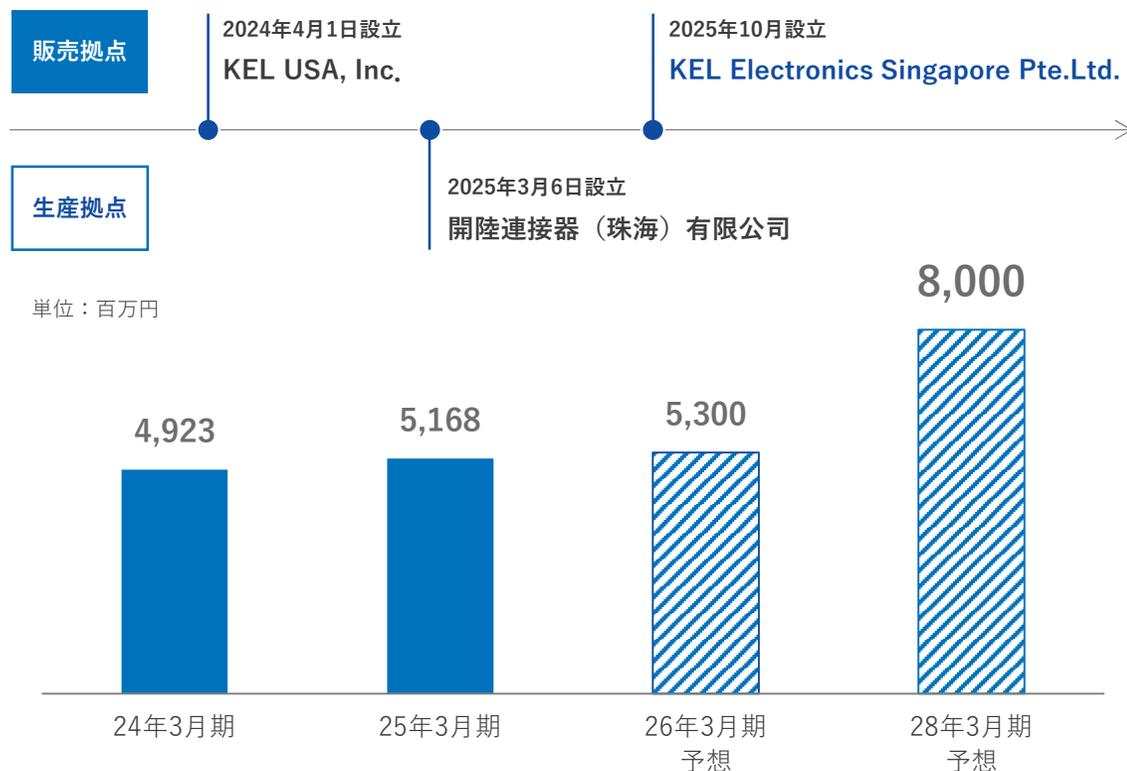
	2025年3月期 実績	2028年3月期 目標
売上高	118億円	155億円以上
内、海外売上高	51億円	80億円
ROS (売上高営業利益率)	5.0%	15%以上
配当性向	144.8%	40%以上 DOEの下限3.8%

販売戦略の進捗 | インド・東南アジアでの新たな販路構築

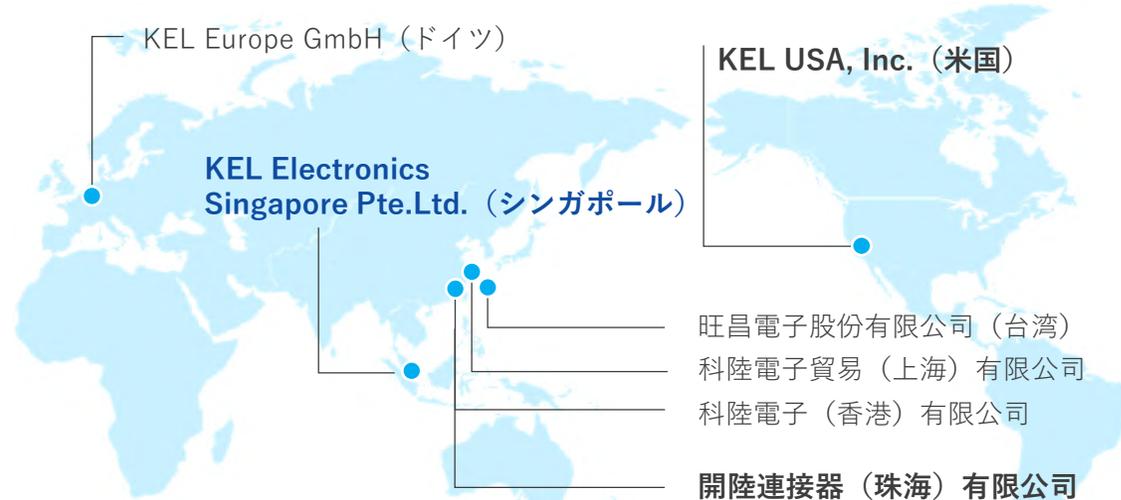


- 2024年4月の米国拠点の設立に続き、2025年10月シンガポールに販売拠点*を設立
- シンガポールで販売体制を整え、東南アジア・インド市場における販路を拡大、コネクタ売上のいっそうの拡大を図る

海外売上高の実績と予想

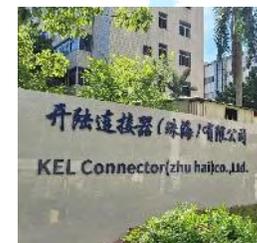


海外子会社



*シンガポール販売拠点

- 設立の目的** 海外で事業運営するお客様とのビジネス強化
- 対象市場** 車載機器市場
- 対象地域** 東南アジア・インド



■ 国内外での展示会への出展を積極的に推進、新たな販路の構築を目指す

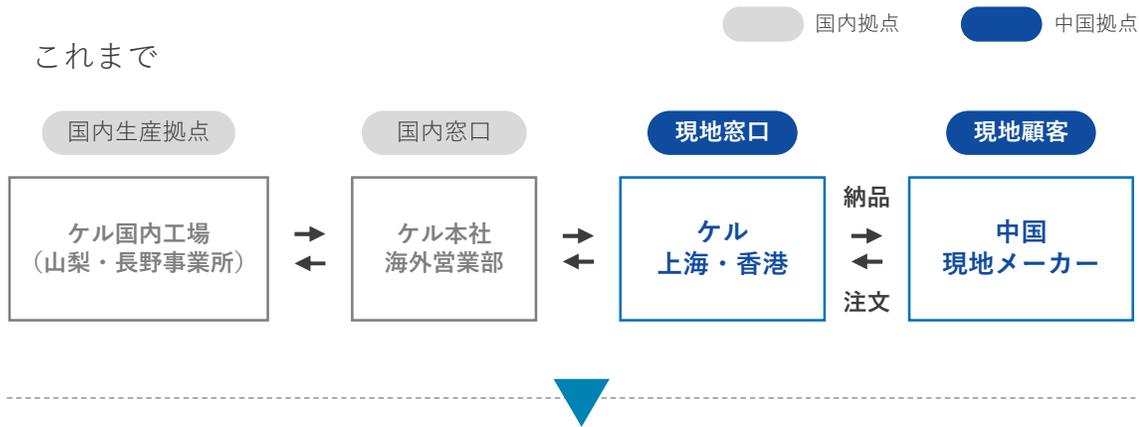
	時期	地域	展示会名・会場	出展目的
上期	2025/4/15~17	中国	electronica China 2025 Shanghai New International Expo Center	車載・工業機器市場での取引拡大
	2025/5/21~23	日本	人とくるまのテクノロジー展 2025 YOKOHAMA パシフィコ横浜	車載機器市場での取引拡大
	2025/7/16~18	日本	人とくるまのテクノロジー展 2025 NAGOYA Aichi Sky Expo (愛知県国際展示場)	車載機器市場での取引拡大
下期	2025/10/7~9	米国	The Battery Show North America 2025 Huntington Place	車載機器市場での取引拡大
	2026/2/25~26 (予定)	米国	DesignCon 2026 Santa Clara Convention Center	通信機器市場での取引拡大

生産体制強化の進捗 | 2025年3月、中国 珠海市に初の海外生産拠点を設立

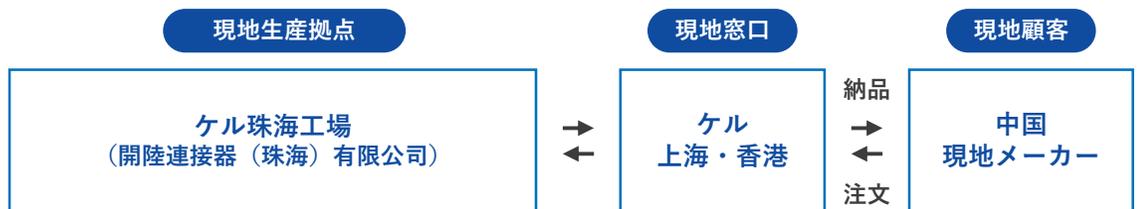


- 現地メーカーへの対応から、中国国内での一貫生産体制を構築し、リードタイムの短縮を図る
- 工業機器市場向けは量産を開始、車載機器市場向けも生産ラインを立ち上げ、ボリュームゾーンの獲得を目指す

現地生産体制を構築



中国国内で一貫対応



対応市場と製品

工業機器市場

細線同軸コネクタを量産開始



車載機器市場

フローティングコネクタの生産ラインを立ち上げ



生産体制強化の進捗 | 国内工場では生産効率を向上

■ 一次加工の工程（プレス・メッキ・樹脂成形）の内製化を推進、コネクタ生産工程では、不良費の削減やスマートファクトリー化に取り組む。生産体制を強化し、生産効率を向上。原価の低減を図る



注力市場/強化商品	フローティング	高速伝送	防水	ハイパワー
<p>工業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多列・多極 (500極以上) 多点接点 	—	<ul style="list-style-type: none"> リチウムイオンバッテリー向けコネクタ 防水モーター向けコネクタ 	<ul style="list-style-type: none"> リチウムイオンバッテリー向けコネクタ モーター向けコネクタ
<p>車載</p>	<ul style="list-style-type: none"> PCIe5.0 耐熱(140°C) 耐振動 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>JGシリーズ</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 車載カメラ用コネクタ PCIe5.0 光コネクタ 	<ul style="list-style-type: none"> 車載カメラ用コネクタ 	<ul style="list-style-type: none"> バスバー接続向けコネクタ インパネ接続用ドロワーコネクタ
<p>画像</p>	<ul style="list-style-type: none"> 狭ピッチ (0.4mmピッチ以下) 小型 (実装面積削減) 	<ul style="list-style-type: none"> 細線同軸 EMI対策品 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>TSL-NM2シリーズ</p> </div>	—	—
<p>医療</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多列・多極 (500極以上) 	<ul style="list-style-type: none"> PCIe5.0 	<ul style="list-style-type: none"> 超音波診断装置向けコネクタモジュール 	<ul style="list-style-type: none"> ディスプレイ向けコネクタモジュール
<p>通信</p>	<ul style="list-style-type: none"> PCIe5.0、6.0 56Gbps 	<ul style="list-style-type: none"> AOC (32Gbps) 256Gbps 通信モジュール向けRFコネクタ 	<ul style="list-style-type: none"> 防水 FANユニット <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>FWSAシリーズ</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> リチウムイオンバッテリー向けコネクタ

商品戦略の進捗 | PCIe5.0相当の車載用フローティングコネクタを開発



- 従来の車載機器から、統合ECUなど、自動車のより核となる部分へ対応領域を拡大
- 各メーカーの要求の高まりに応え機能を向上、海外への販路拡大機会を増やす

従来の車載機器



DTシリーズ

カーナビ



ETC



統合ECU ※1



PCIe 5.0相当 高速伝送フローティングコネクタ

JGシリーズ

情報系



機器間伝送発達による**高速化**

パワートレイン ※2



インバータ内の**耐環境・信頼性**

※1 統合ECU：異なる機能ごとに独立し、複雑化された自動車全体の機能を統合すること。

ECU(Electronic Control Unit): 自動車に搭載されるシステムを電子回路を用いて制御するユニット

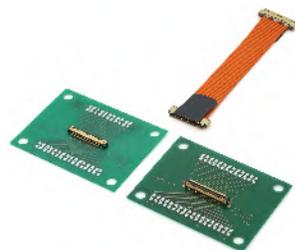
※2 パワートレイン: エンジンが生み出した駆動力を伝達する装置類の総称。エンジン、トランスミッションなどが含まれる

商品戦略の進捗 | 高速伝送関連商品の機能性を強化

■ 高性能同軸ハーネスの機能性を強化した製品を販売開始

■ 非磁性を付加し、より高度なニーズに対応。工業機器市場、医療機器市場での採用拡大を目指す

従来のニーズに対応



0.55mmピッチ高性能同軸ハーネス

TSLシリーズ

アプリケーション

画像機器市場

DVC、デジタルカメラ、
監視カメラ



車載機器市場

カーナビ、
EV、ETC



医療機器市場

超音波診断装置、
CT、内視鏡



より高度なニーズに対応



0.55mmピッチ高性能同軸ハーネス/
非磁性タイプ

TSL-NM2シリーズ

アプリケーション

工業機器市場

電磁ビーム描画装置、
電子ビーム露光装置、
イオン注入器、電子顕微鏡



医療機器市場

MRI装置、NMR装置

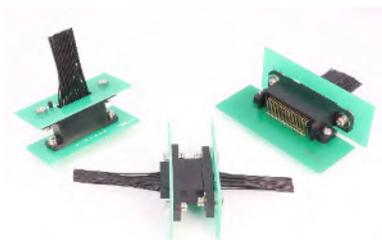


商品戦略の進捗 | 防水・防塵の保護等級「IP67」に対応



- 粉塵が内部に全く侵入しない、最高の防塵等級と、水深1mに30分間沈めても水が侵入しない性能を示す「IP67」に対応
- 屋外使用により、ドロワーコネクタの使用領域の拡大を進める

屋内使用



FASシリーズ

アプリケーション

ATM



発電機器



遊技機器



屋外使用



2.0mmピッチ
防水・防塵ドロワーコネクタ

FWSAシリーズ

アプリケーション

通信基地局
(ファンユニット)



農業用
屋外センサー装置



■ 車載・民生向けコネクタ及び圧着端子に強みをもつ日本端子株式会社との販売提携、イリソ電子工業株式会社と車載用小型同軸コネクタの試作開発における共同開発はいずれも予定通り順調に進捗

日本端子株式会社と販売提携を締結



- 産業用コネクタ
- 基板対基板接続用コネクタ
- 車載・民生向けコネクタ
- 圧着端子

新たな市場機会を創出
高品質なコネクタ製品を提供

イリソ電子工業株式会社と共同開発



車載用同軸コネクタの高性能化ニーズに対応すべく、共同で研究開発を実施。2025年度内の試作評価、2026年度の製品化を目指す

小型同軸防水コネクタ（基板側+ハーネス側）



主な用途

- AD/ADAS 制御ユニットとセンサー接続
- 通信ユニットとアンテナ接続
- その他、各種ECU間での同軸ハーネス接続

9GHzまでの高周波帯までカバーすることで、高度化するAD/ADASシステムに対応、コネクタの小型化によりECUへの高密度実装と適切なハーネス配策を実現可能

組織・管理体制の進捗 | 働き方を見直し、生産性を向上



- 2026年1月に多摩センターオフィスを開設し、営業部門を本社から移管。組織体制を見直し、機動力を高め生産性を向上
- 通勤時間を削減し、生産性の向上とともに従業員満足を高める。リクルートへの好影響も見込む

多摩センターオフィス



所在地

東京都多摩市落合一丁目32番地3 GA多摩bldg.6階

アクセス

京王相模線	「京王多摩センター」	駅徒歩5分
小田急多摩線	「小田急多摩センター」	駅徒歩5分
多摩モノレール	「多摩センター」	駅徒歩6分

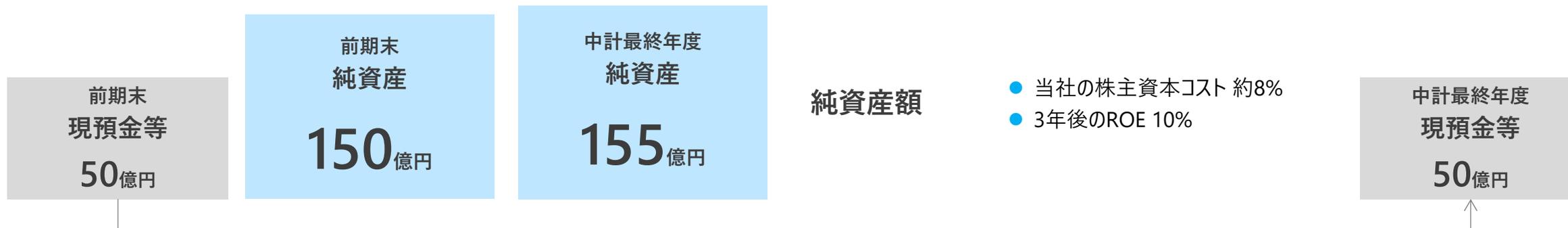
狙い

- 営業部門の機動力を高める
- お客様が立ち寄りやすくなる
- 通勤時間の削減
- リクルートの強化

画像はイメージです。実際の内容とは異なる場合がございます。

2026年3月期からの3年間のキャッシュインが65億円、同額を設備投資と株主還元にし、現預金は現状維持

3年間のキャピタルアロケーション



「株価と資本コストを意識した経営」への対応について

- 中期経営計画の遂行により、利益成長・資本効率を改善し、株主資本コストを上回るROEを目指す
- IR活動を強化することで、資本コストの低減も推進（機関投資家/個人投資家向け説明会 各年2回実施）

株主資本コスト

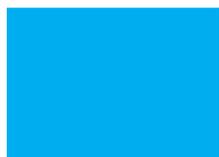
(当社現状認識)

約8%



株主資本コスト
(理論値ベース)

2.6%



25/3期
ROE

方針

- － 中期経営計画に沿った事業戦略と株主還元方針を実行することで、利益回復によるROEの向上を図る
- － 業績回復後もPERを維持向上するべく、IR/SR活動の強化を図り、資本市場との対話を推進

取り組み

利益成長

成長領域への投資集中
原材料高騰分の価格転嫁
高付加価値製品の開発

資本効率向上

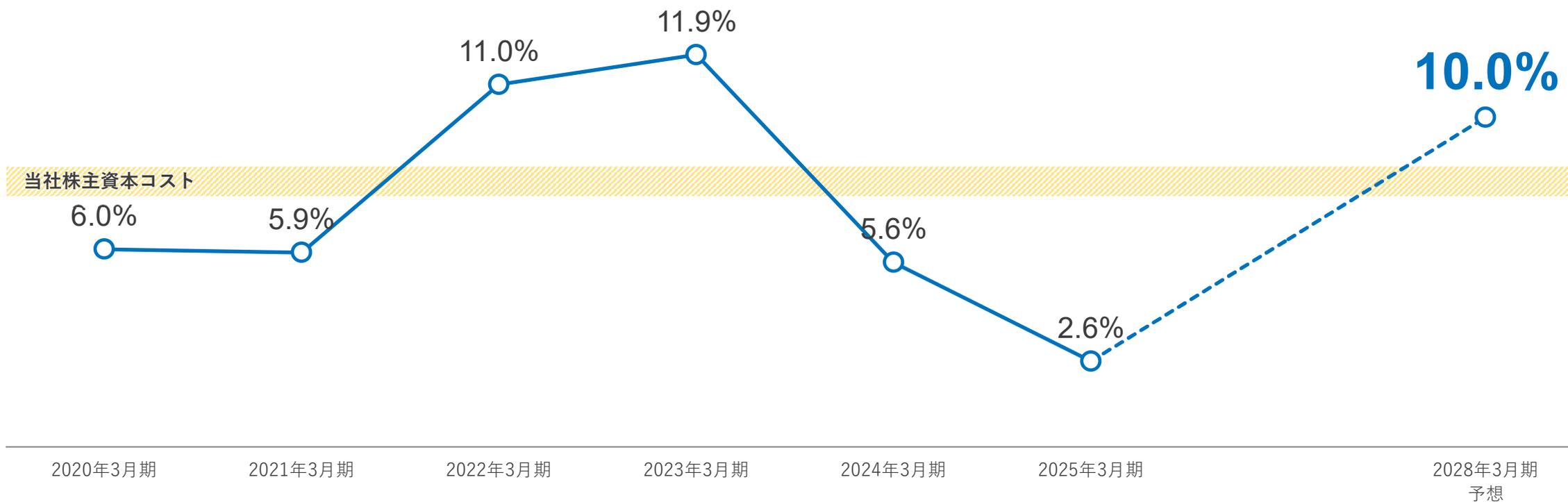
DOE導入による
増配により
純資産の増加抑制

資本コスト低減

IR強化による
成長戦略の浸透
サステナビリティ経営の
推進

■ 当社は資本コストを約8%と算出、2028年3月期には資本コストを上回る10.0%のROEを計画

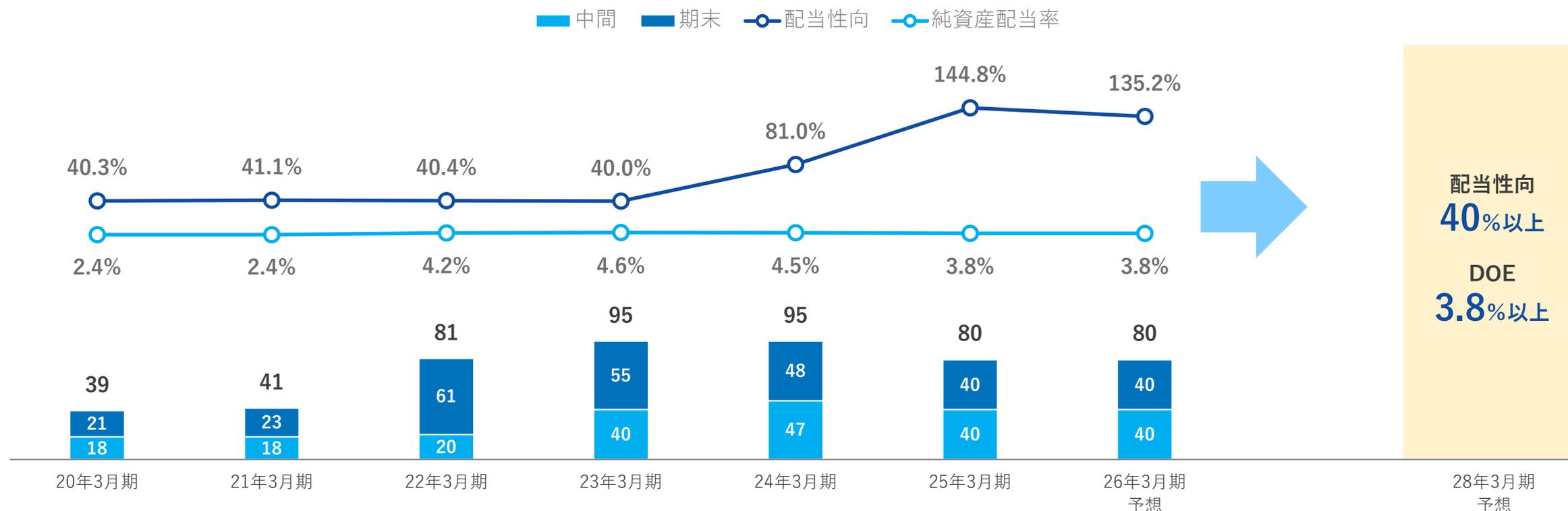
ROEの推移 (%)



株主還元方針 / 配当方針

- 2025年3月期から配当方針を変更。連結配当性向40%以上の目標に加えて、DOE（純資産配当率）の下限を3.8%に設定し、安定的な配当を実施
- 2026年3月期は年間配当金80円を計画。2028年3月期も配当方針に沿った実施を計画

配当金の推移（円）





5. サステナビリティへの取り組み

ESG	マテリアリティ	取り組み内容	関連するSDGs
E：環境 	資源循環や自然環境保全を含めた 気候変動対策	気候変動対策	
		資源循環／自然環境保全	
S：社会・人材 	多様な人材がウェルビーイングで 活躍できる組織づくり 社会課題解決に向けた事業活動	多様な人材の活躍／ウェルビーイング	
		地域の安心・安全	
		世界の暮らしを支える製品の開発・製造	
G：ガバナンス 	品質安全、顧客満足向上を目指した ガバナンス強化	ガバナンス	
		ステークホルダーとの対話	

■ 継続的な取り組みが評価され、健康優良企業「銀の認定」を取得



認定番号：第3622号

健康保険組合連合会東京連合会が提唱する「健康企業宣言」に賛同し、社内に「健康づくりプロジェクト」を立ち上げ、職場の健康づくりを推進

健康診断受診率100%の達成を目指す宣言に加え、健診結果の活用、特定保健指導の活用、要再検査の受診推奨、健康づくり環境の整備、食生活・運動・禁煙・心の健康といった8項目にわたる継続的な取り組みが評価され、2025年7月1日付で「健康優良企業(銀の認定)」(認定番号：健銀第3622号)を取得

当社ウェブサイトにてIR情報他、様々な情報を発信しておりますので、ぜひご覧ください！



(当社IRページ URL <https://www.kel.jp/investor/>)





ご清聴ありがとうございました。

本資料は証券投資に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。また、本資料には、計画、方針、経営戦略などといった、将来に関する記述があります。これらの記述は、当社が現在入手している情報に基づく予測、計画等を基礎として作成しているものであり、不確定要素を含んでいます。従って、様々な要因の変化により、実際にはこれらの記述と異なる結果となる可能性があります。そのため、実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定は皆様ご自身のご判断で行うようお願いいたします。また、投資に際して生じたいかなる損失に対し当社が責任を負うものではありません。

本件に関するお問合せは、コーポレート本部（042-374-5810）までお願いいたします。